



1998 - 10 発行

社団法人 千葉市老人クラブ連合会 (043) 224-2050

地域に合った活動、その取り組み

80才まで生きる割合は男が二人に一人、女は四人に三人という。すざまじい勢いで高齢化の足音がとどろく。女性の社会進出もあって、どこかの地域でも昼間人口は圧倒的な老人社会だ。超高齢化社会をいかに生きるか。若者はシビアに働く人が少ない。老令者もそれなりに働いて社会に貢献する。年寄りだからといって元気な者まで何もしていないでは人手が足りない。市老連は今年各地区別研修会の統一テーマを「地域に合ったクラブ活動の活性化」とした。教養部がまとめた報告書は八各地区とも地区連会長がリーダーシップをとり、単位クラブの会長や役員の協力を得て、地区の実態に合った活動に取り組んでいるVと集約した。紙面の都合で全部掲載出来ないのは残念だが、主なるものをピックアップした。また、四地区からは夫々の立場にたった寄稿をいただいた。

研修会から

- 自治会役員は69才定年をお願いして、その後は老人会に加入して貰うことにした。
- 高齢者がゴミ拾い、缶拾いをしてる姿は次の世代も見ている。
- 農業をしている高齢者の会員同志の農作業協力
- 寝たきりゼロ運動をすすめているが、本人々家族の問題をゼロにするために――
- クラブの活性化は情報から、広報紙や県民だよりを見て参考にする。
- 85才以上の高齢者を対象にゆうゆうの会の集いをやっているが、家族との絆を深くしている。
- 広報の配布、クラブ活動の

作品をもって家庭訪問と勧誘

● こどもと一緒に慰問活動。

● 60才未満の壮年層の理解を得るため、クラブの方針、内

容を広報で公開し、成果を得ている。

● 賛助員制度の導入で活気が見られる。

高齢者社会の先達に

幕西若葉会 福田和義

幕張西地区は、幕張メッセの玄関口であります。

一昔前は、春は汐干狩、夏

は海水浴、冬は海苔の養殖と、

風光明媚な幕張海岸も次第に

埋め立てられ、今では海岸は

遙か彼方へ人工海岸として残

すのみ、時代の変遷を感じま

す。現在、九町内自治会(約

二、四〇〇所帯)で構成され

ております。

【クラブ活動の実態、来世紀

への展望】

五十年四月、初代会長、桑

田健一氏のもと六十名にて

「幕張西老人会」として発足、

サークル活動としてゲートボー

ル実施、五十五年、踊り部誕

生、五十六年会員の健康促進

を目的に「健康体操クラブ」

実施、五十八年「幕張西老人

クラブ若葉会」と改名、六十

一年五代菅野会長就任、五、

六丁目より会員加入し一〇三名に、地域での社会奉仕の一貫として毎月第二木曜日に附近の道路等の清掃後、例会を、又文化サークルとして、詩の朗読「四輪馬車」を、「健康体操」「四輪馬車」共に会員以外の地域の方も参加され、更に地域児童とのふれあいに、保育園、子供ルームとの友愛交流、公民館文化祭へも参加しております。平成元年季刊紙「わかば」創刊、地区主催の盆踊り、運動会、旅行等の行事に参加、会員の中で個人或いは二、三人のグループによる友愛活動等、地域での活動に、各幹事による新会員募集にそれぞれが自主的に活動しております。六年会長就任後、三〇地区の関連団体として認定され、一層地域との密接な連携が生まれた。尚相談役の提案により、会員の資質向上を目指し毎月第四木曜日に研修会(学習会)を実施、地域の有識者、医師、警察、消防署、保健センター保健婦等による高齢者向けの講演も実施しております。

七年に老人臭の一掃を目的に「幕西若葉会」と改名、各会員の自主的勧誘により八十七名に迄減少した会員数が九十八名に増加、然しその後、

明日を築こう

新生 清蔵

目に映る社会の出来事が、言葉や活字によって報道される情報化時代は益々スピードが大きな役割をもつ。「ちば市老連」編集担当される広報部も充実し、広報紙として活躍しています。本紙を通じて二万余の会員にお会い出来たことを感謝しています。

千市老連は九八年四月に

満三十六年の歴史を迎えた輝かしい団体です。その歴史のなかには涙あり笑いあり、先輩の築いた数多い遺業を大切に、次代の会員に引継ぐことを役目としてお約束したい。昭和六十二年四月、四二八クラブ、二二、一五九人という団体でした。その後、高齢化は急速に進み、老人クラブへの考え方も大きく変わり、

労働就職年齢や老人クラブの名称等や厚生省の高齢者の基準年齢七十歳にした、或いは七十歳まで働きたい等々の声が、入会する大きな壁になっているために、最近では減少しています。過渡期であり苦しいが、市老連が飛躍する土台があります。必ず近き将来に高齢者の豊かさを求める社会層も大きく変わる事は明らかであります。先日、市が実施した第十一回ちば市民まちづくりファミリーアンケート集計が発表され、老人福祉の

充実を要望する市民が四五・一％とあります。高齢者が楽しく生きたい、よい環境を求める声がストリートに表われています。千市老連がリーダー的役割をもって活躍している事は、多くの高齢者市民の願望に応えることであり、全会員は総力を出し、明日を築いて行きたい。「必ず明日は明るい明日が訪れる」それを大切に受ける心構えをもって行きたい。

(社)千葉市老連会長)

転居、死去により減少、会員獲得の難しさを痛感させられます。来世紀には超高齢化社会を迎えるに当たり、会員募集も勿論ですが、当地区にまず、単体クラブの増設が肝要と存じ、地区役員会にて、各自治会会長の協力を要請致しました。早速、県住東自治会に、「東寿会」が設立され本年より活動しております。或る自治会に於いても発起人会が発足し年度内設立に向け鋭意進行中でございます。今世紀中にせめて、四乃至五クラブが当地区で活動出来ればと思っております。

昨年二月、休刊中の「わかば」を、編集部員の自主的発

想により、月刊紙として再刊、全会員は勿論、地域の関連役員の方々へも配布致して、ご協力をお願いしております。二十一世紀を「豊かな地域社会」「豊かな高齢化社会」

地域での共生

宮園松友会

間馬 恭一

私は二年前から地域の公園で毎朝、太極拳の集まりをしています。仲間は近所の奥さん方が中心ですが、会員だけではありません。四〜五人からのスタートで、当初は勇気がいりましたが、今は二十名が集まり、健康管理は驚くほど熱心です。

また参加者は同じ地域の方ばかりでなく隣の自治会からも来ています。私は老人クラブの運営には、高齢者が相寄り、和やかな雰囲気の中で時間を共有することが肝要と考えています。老人クラブの殻を取り除くこと、そしてまだまだ非会員の目に

映っている老人クラブの閉鎖性を取り払うような心がけなければならぬと思います。太極拳は礼に始まり礼に終る。約四十分間の仕儀ですが、土、日、祝日もなく雨、強風でなければ毎日続けています。仲間から肩凝り、腰痛、膝の痛みが少しでも軽くなったと聞かされればこんなに嬉しいことはありません。「主人も定年が近いのでその時は仲間に加えて下さい」という申し出もあり、仲間が途切れることはないと思います。

太極拳の始まる十分位前に、ゴミ拾いを続けています。落葉は自然感を損いませんが、ゴミが目にと映ると気が散りま

すし、公園は私たちの神聖な道場です。このゴミ拾いも老人クラブの美化活動とみてくれてもいます。

また地域の保育所の児童の地域教育の一環として五年前から毎水曜日に老人クラブの会員を招き朝の体操をしています。懐っこい児童たちが門前で待っている、一緒にする菜の花体操も楽しくいろいろな交換イベントにも招かれています。我々が受け持っている公園清掃にも児童たちが加勢してくれ、人のためにする作業が如何に気持ちのいいものか体験してもらっています。

会員の高齢化がすすみ参加者が減っていますが、父兄たちも老人クラブとの交換を温かい目で見守ってくれています。体操のあとのお茶の時間が実に楽しく、情報交換、ストレス解消の場にもなっています。

これらは一例で、しかも一つの角度だけからの見方ですが、地域には必ず何か秀でている方、学究肌の方、趣味に熱心な方、とりまとめの上手な方などおられる筈です。我々はお金のかかる企画は望めませんが、初めは幼稚な集まりでもプラス思考ですすめることが大切だと思います。

会員100名を目標に

千城地区悠友クラブ 深山 太一

大上段に振りかぶらなくても身近な処からクラブの魅力づくりや会員であるなしに拘らずひろく友好の輪をひろげていけば明日の会員としても期待できます。



会員が集い心豊かな日々を送ることを目指して悠友クラブを結成しました。会員数五五名(正会員四二名・賛助会員が九名)それから五年が経過し、諸々の行事を開催していく中で、会員が次第に増加し、現在、正会員が六八名(男子二五名・女子四三名)賛助会員一七名(男子五名・女子一二名)計八五名になっていきます。

賛助会員制度

六〇歳未満で、行事への参加、手伝いはもとより、行事の案内

グランドゴルフの練習を終って



文の配付・会費の集金・友愛訪問なども行っていただいております。本会の継続・拡大と活性化を図る上で非常に有効な制度です。

広報紙「瓦板」悠友」の発行

A4版で2〜6頁で、二ヶ月に一回の発行を目標としています。内容は行事や各サークルのお知らせ、会員からの投稿(旅行記・ふるさと自慢・短歌・俳句など)会員へのインタビューなどです。すべてが手作りの広報紙ですが、昨年十月に第一号を発行して以来、第六号になりました。自分の書いたものが活字になる時の嬉しさは格別のような

り、また魅力あるクラブ活動をPRするために絶好のものです。

合唱団

「悠友クラブの歌」から元気に歌いましょうで始まる合唱団です。毎月二回(第二・四の火曜日)自治会館で練習しています。懐かしい童謡や昔愛唱した歌が中心ですが、現在は「千城地区ふれあい演芸大会」「市老連演芸大会」の出場を目指し、荒城の月、砂山の二曲の他、フォークダンスにも取り組んでいます。

健康維持増進

「健康管理」「健康づくり」の講話を年二回開催、また早朝ラジオ体操、グランドゴルフ等誰でもができる運動を通しての仲間づくりをし、クラブ内の連帯意識をつくることも、今後いろいろな活動をしていく上で大切な要素だと考えています。

その他の行事

新年会、食事も、大型バスを利用しての一泊旅行、施設見学会、親睦旅行などを開催しています。毎回参加者も多く、会員の楽しみの一つでもあります。

定年後は、おつりの人生ではなく、これからが自己の人生を切り開き、磨き、輝くときであり、まさに「人生の幸福」は老後にあると思います。

長生き 日本だから

長寿社会を元気で生きたい。足腰の衰えやスタミナ不足が気になる会員たちは、G/Gや輪投げ、カラオケ。たまには日帰りや一晩泊まりで、の

今後とも会員と話し合いながら、さらに魅力的で、有意義な運営に努め、会員数一〇〇名を目標のひとつに掲げています。



防災記録班としてイキイキ活動する会員たち

勿論それだけではありません。男は二人に一人、女は四人に三人が八十を生きるといわれる超高齢化。若者はシビアに働くが、何としても人が少ない。年寄りだからといって何もしないでは、長寿社会は火の消えた社会になってしまふ。だから、元気な会員が中心になって自治会や地域の団体の行事や活動に加わる。この間の町内防災訓練でも記録班を担当し、ビデオやメモで人や物の動きをチェックしました。市民体育祭は後援団体として盛りあげします。それもこれも少しでも役に立ちたい。老害だけはふりまかない。それが長寿社会を生きる道だから、みんなそう思っているからです。

(轟南延寿会)

高齢化社会に向きあう姿勢を

市老連副会長 小関 誠

「としよりの日」が全国的に祝われるようになったのは、一九五一年のことである。老人福祉法制定とともに、「老人の日」に変わり、国民の祝日になり、六六年には「敬老の日」と改められた。

この四七年間の変化は、人口革命と呼ばれるほど大きい。八十才まで生きる人の割合は、男五〇・六％、女七二・七％で、約三十年前にくらべ倍増し、男は二人に一人、女は四人に三人が「人生八十年」を超えたのである。とりわけ目を見張るような変化が二つある。第一は町中を出歩く元気な高齢者が増えたことである。としよりのという呼名が似合わないほど、背筋を伸ばし、おしゃれだ。何の支援も必要がないように見える。しかし実体は生理的な老化から逃げられないから、みかけほど達者でない。足は持ち上げにくく、体のバランスもとりにくい。目は徐々に濁って暗い見えにくい。

高齢者が交通機関とその周辺での不便さに悲鳴をあげているという。「運賃表は小さくて読めない」「階段を上るより下りの方がなおつらい」「腰かけるところがないので難儀する」「バスの乗降口も高くて大変だ」等々。高齢社会の先進国であるヨーロッパでは、床を五十センチ低くしたり、ノンステップバスが増えているという。乗り場にも工夫があり、乳母車や車いすも楽に利用できるようである。第二は逆に介護が必要な高齢者も増えていることだ。この分野の商品やサービスは、市場原理に任せると、とんでもないことが起る特長がある。おとしよりに嫌われる「宇宙服」「痴呆服」といわれる「つなぎ寝間着」がよく売れている。カラフルな花柄やかぎつきのものも現れた。何故こんなものが開発されたかといえ、年寄りにおむつを外されると介護者は忙しくなるからだ。年寄りはおむつをとりかえて貰いたいのに――。企業は利用者が嫌がるものは

作らない。しかし企業にとって利用者は老人ではなく介護する人だ。だから作れば売れる。人々人権を無視したこうした商品やサービスが後を絶たない。

使いやすい駅やバスをつくることや、介護を必要とする人の人権を守ることなど、個々の力ではどうにもならない。政治や行政の力がないと解決できない。その政治の世界にやっとなししい動きが出てきた。「福祉社会の確立」を基本政策の一つに挙げている某政党は次のように述べている。

生活者としての尊厳を保障するナショナルミニウムについては、公的な負担による「責任ある社会保障体制を確立する」「家族や個人の犠牲に依存するシステムから社会的介護システムへの転換を促す」「バリアフリー（障害のない）の都市づくりを重点的に推進する」ナショナルミニウムがどの水準なのか、この表現だけではわからない。しかし、従来の政策に比べれば、高齢社会に正面から向きあおうとする姿勢が見える。

敬老を心構えて済ます時代は終わった。政策が問われる時代の始まりである。

自由席

熟年の生きがい

旭町東寿会 田辺 祥一

よく人生の生きがいといわれますが、生きがいとはどんな意味があるかと思ひ、辞書を繙いてみましたら生きている張り合い、幸せとのついでにありました。生きている張り合いの張りとは伸びること、ひろがることを意味して人間の持っている秘められた能力を一つの目標に向かってつき進む一種の緊張感をさしているもので、人間の一生の営みはこの緊張の張りだけで成りたっているものではなく、弓の弦がい一杯に張られればなしではついに切れてしまふと同じように適度のゆるみがないと長続きしません。我々の生活にも毎日の厳しい務めと休息できる安住の家庭と緊張と弛緩両者のバランスがうまくとれている時、それがめりはりのある人生といわれるものです。

生きがいの第一は生活に目標を持つことです。目標を持つには仕事を持つことが一番ですが、定年を迎えまふと第二の仕事につく方も多いようですが、第二の仕事も終り、時間的に余裕ができましたら次にはすぐれた芸術作品や自

然環境の価値あるものにふれ、趣味を生かして自分自身を豊かにするものであります。私は現職を六十才の定年で退職して民間の会社へ十三年間勤務し、民間の会社の厳しさを経験しました。その後、千葉市の老人大学の袖ヶ浦大学に三年間学び、県の老人大学へは申し込んで三年目でやっとな園芸科に入学でき、四年間学んで現在は千葉県生涯大学卒業生親睦学習会に入り学んでおります。

素敵な熟年者像

この間、ちょっと面白い風変わりな会に行ってきた。おしゃべりを楽しむ会。テーマは「素敵な熟年者像」。いくつかを紹介しよう。

☆人生は楽しむためにある。

すべてこの一点に集中する。

何故長生きしたいのか、もう一度考えてみましょう。

☆今日一日がすべて。

昨年十二月に「介護保険法」が成立、平成十二年四月一日から実際に運営される。それに先立って「認定審査」というのがあり、介護を受けたいと申請した人が介護のどのラックに該当するかの認定作業が十一年十月から始まる。これらの運営主体（保険者）は市町村が当る事になっており、即ち私達の場合は千葉市のカバーに入ることになる。

若葉地区老連では、ディサービスセンター「ジャローム若葉」と協力し、千葉市介護保険準備室長の田中一男氏を招き、八月四日、若葉区役所講堂で勉強会を開いた。運営主体（保険者）の千葉市を財政面でバックアップする国及び県の運営細則が決まっていたので、細かな所まで分ったとは言えないが、田中さんはかなり突っ込んで説明してくれた。

私達高齢者（ここでは六十五歳以上の第一号被保険者）の保険料は老齢年金から天引きされるが、その額は国基準の介護サービスに千葉市が上乘せした水準によって、該当

者の所得に対応して決まる。つまり自治体・個人ごとにそれぞれ異なる。（これらの大綱については各行政機関窓口に用意されてあるパンフレット『介護保険制度がはじまります』を参照されたい）従って、例えば「配食サービス」とか「外出介助」などは国基準には入っていないので、これらは保険外サービスとして個人負担しなければならない。この保険外サービスのことをよくのみ込んで置かないと

「介護地獄逃れても今度は介護ローン地獄」という自己負担増に悩む事になりかねない。実際に、わが国に先んじて三年以上前に介護保険を導入したドイツでは、個人意識が強い欧米の例に漏れず、財政支出を抑えたいという保険者（国・自治体）とサービスの拡大を期待する被保険者（つまり私達）との相剋に悩んでいる例が報告されている（平成九年十一月朝日新聞）。

私達がどっぷり漬っている超高齢者社会は、医療費の膨脹による現行医療制度の破綻と、ついには親子四世代の中で高齢者介護を家族内でやることの無理を招来し、先進国の体面上その対策を政策化せざる得ない現状に至っている。ある意味で文明の爛熟が到達した極限、つまり地球的環境汚染と裏腹な問題ではないかと私は思っている。

実際の点で言えば、一つはこの保険は、四十歳以上の

全国民が保険料を負担する一種の国民保険で、病気の代わりに「介護」が保険の目的になっている。十二年三月に交付される「被保険者証」も現行の「国民健康保険証」と同じ形になるそうだから、尚更のことである。さらに介護サービスを利用した場合は、利用者がかかった費用の一角を負担しなければならないこと、また、保険外サービス提供事業者がごまんと名乗りを上げる

だろうこと（国の認可事業、つまり当然の事ではあるが、あらかじめ計画的に、余生のための「貯え」を用意して置かなければならないことが、自明のこととして理解されよう。より以上にこの制度の画期的な点は、「介護」が社会的認知をうけたこと、従って世間体を気にせずに自分の権利として「介護サービス」を主張できることである。被保険者（受益者）としての我々は、

この点において自ら意識改革しなければならぬ。老人会としては、この意識改革の中心になつてコミュニティーにおける「要介護者」の情報を積極的に収集し、有効に伝達し、制度が目的々に機能する方向に活動目的を定めるべきであり、それが時代が一番要請していることである。つまり制度をいのちあるものとして守り育てる責任は、国や県や市よりも私達自身にあることを強く認識し、その自覚に立って活動することが今日の老人会というものであろう。

介護保険法施行と老人クラブの対応

広報部長 菊池 力

今日一日を丁寧。自分に今は今という時間以外はない。☆自分が相手にとって良い人でなければ、良いお友達は出来ない。友達は多い程幸せです。☆人と争わない。人と比較しない。自分が一番大切だから。☆日常生活の当り前のことを当り前と思わない。一つ一つを有難いと思えば、今日が楽しく豊かになる。☆今日の続きが明日です。☆すべてのことにプラス思考。そうすれば間違いなく楽しくなります。さて、プラス思考とはどんなこと？

☆困った年寄りにならないこと。さあ、どんな年寄りでしょうか？

* * *

考えてみれば、みんなは分かってきた当り前のことでした。難しいことですが、「それを日々実行し、持続し、そして生活慣習化出来るなら、きつと素敵な熟年者といわれることでしょうね。

（瓦版悠友から、執筆は下田巻蔵さん）





お元気ですか 事務局だよりです

役員改選等第6回総会

第6回通常総会は5月26日文化センターで開催。市長感謝状は小川明良さん他10名が、市老連会長功労賞には波多野前会長と柴崎前副会長が、市老連会長賞には神明町第2長寿会他14団体、個人は伊藤勇次さん他61名が表彰されました。総会は平成9年度事業報告、決算、監査報告を承認後任期満了に伴う役員改選が行われ、会長に新生清蔵さん、副会長に久力スイさん、小関誠さん、長谷川省吾さんが選出されました。

全老連中央セミナー

6月2日～4日、全老連中央セミナーが横浜市で開催、市老連から会長他3名が出席しました。

笑いと涙の特選演芸会

市老連特選演芸会は6月16日市民会館で開催しましたが、浪曲、軍歌、コントと笑いと涙、懐かしい歌など楽しい催しとなりました。

関東甲信静研修会

6月17日リーダー研修会が茨城県大洗町で開催、市老連から会長他10名が参加しました。

囲碁将棋大会

各区老連大会等を経て出場した代表選手による囲碁将棋大会(写真)は8月20日事業団

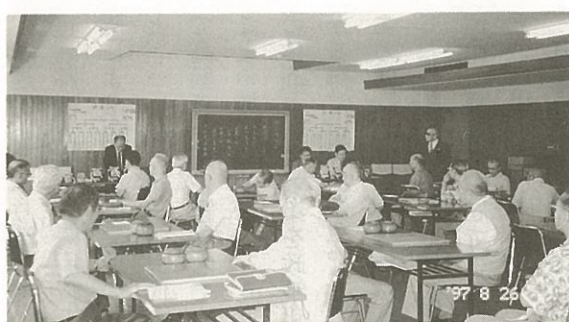
ビル5階会議室で開催しました。この大会はねりんピック福井大会の出場選抜を兼ねて開かれましたが、入賞者は次の通りでした。

(○印は福井大会出場者)

●囲碁 ●将棋

優勝○玉田 清 ○吉田常興
準優○山根栄一 ○亀山寿男
3位○草刈謙一 新井一郎
4位 小川 豊 ○田中敏男
5位 佐藤吉司 永棟和男
6位 高野光雄 日暮雄治
※将棋新井さんは本年度出場のため、田中さん繰上げ出場
作品展、百二才会員出品

8月25日から30日にかけて開催した市老連会員作品展(写真)は市立美術館が会場となりましたが、専門施設のため



囲碁将棋大会

作品はイキイキとしており参観者も数多く盛会でした。この作品展には最高年齢102才の内藤さん、91才の大沼さん、西谷さん、90才の佐藤さんが絵画や手工芸を出品されましたが、年を感じさせない作品で夫々シニア賞をうけられました。

市長賞(絵画)田部井レイさん
会長賞(写真)稲葉千代吉さん
金賞 (書道)御園生初枝さん
金賞 (手工芸)酒井泰子さん
" (絵画) 渡辺圭子さん
" (書道) 鎌田アキさん
" (写真) 市原 憲さん
" (彫刻) 明石寿春さん

G/G大会

9月9日秋晴れのゆうゆう広場で開催(写真)27チームが熱戦を展開、優勝は次のとおりでした。

団体 道場南フレンドクラブ
個人 池上和夫さん(都賀)

G/B大会

雨のため中止となったG/B大会に代り、福井ねりんピック代表選抜大会が9月18日開催されます。

十月からのご案内

会長研修旅行 10月1～2日
安中市で開催します。
スポーツリーダー研修 シニアスポーツリーダーの研修会



作品展

は全老連主催で10月14日～16日東京新宿体育館で開催。
芸能大会 10月29日 市民会館大ホールで行います。
ねりんピック名古屋大会 10月31日～11月3日名古屋市中心に開催。市老連はゲートボール、囲碁将棋、シンボジュームに参加します。
輪投げ大会 11月11日千葉公園体育館で開催します。
全老連大会 11月17日～18日郡山市で開催。新生会長、園生台寿会が全老連会長表彰をうけられます。

はつらつ女性委員会

女性上位だとか、女は強いとか世間は賑やかだが、市老連女性委員会はいつも前向きに課題点を研修し実践している。仕掛人(言葉は下品だが)、先を読んでの企画人、実行型のリーダーがきつと素晴らしいのだと思う。女性委員会の活動が地区や単位クラブを巻きこんだ全体活動に発展するのを願望してレポートする。

久力さん(市老連副会長、女性委員長・全老連副会長)はこう話している。

女性会員が7割になろうとしている時、クラブの活性化は女性会員の活動に負うところが大きい。これから高齢社会を迎えて、女性の役割が益々重要で、期待されていることは明らかです。依存する型から積極的に行動する型への脱皮、そのためには第一に「やる気」第二は「男性の理解と協力」第三には「仲間づくりの楽しさ」そして女性だけがもっている特性を活かす活動です。社会参加5割をめざしていきたいと思います。

女性委員会の重点目標と実践報告

- 1 会員増強、地域に合った手立て
- 2 友愛活動
- 3 女性リーダーの育成

【実践活動】

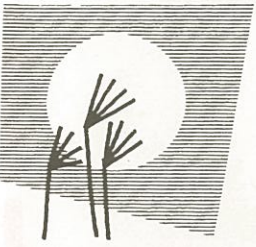
- 1 毎月実施する女性委員会(対象30人)
- 2 市老連行事の理解と役割
- 3 自主活動の企画、情報交換

- 4 サークル活動の多様化
- 5 正副女性委員会 年2回(各地区2名)
- 6 活動報告と意見交換
- 7 研修会 年3回
- 8 サークル活動と会員増強の活動報告と研究発表
- 9 11月 友愛活動の実践活動報告と討議
- 10 3月 講演会(講師を招いての研修会、対象五〇〇名)
- 11 講習会
- 12 レクレーションダンス 6月、9月各一二〇名
- 13 民謡 同一五〇名
- 14 友愛活動
- 15 特養施設慰問、協力活動
- 16 研修旅行 史跡見学Ⅱ年

- 17 二回(各回二〇〇名以上)
- 18 サークル活動の積極参加
- 19 千葉県老連と情報、意見交換集会
- 20 友愛活動については、若葉区来生三さん、第二錦令会東条とりさん、小仲台地区日暮初枝さん、むつみクラブ丸久子さんなどが発表しているが、紙面の関係で掲載できないことをお詫びします。

一隅を照らす

日本仏教発祥の地といわれる比叡山一二〇〇年の歴史を訪ねる研修旅行について、根本中堂での法話のなかで「一隅を照らす」という伝教大師の教えがあるが、これは、よく行い、よく言うことを示したもので、言うことの前に行うことが大切であるとの教えを聞いたこと、その他印象に残る研修旅行であったといえます。この記事は緑区の小関澄子さんのレポートから引用しました。(広報部)



ふれあいの店 11月26〜29。会場はJR鎌取駅前のジャスコ鎌取店。年末慰問 例年どおり12月中旬実施します。市老連新年会 1月20日进行予定。会場未定です。第7回通常総会 3月23日文化センターで開催。11年度運営方針、事業計画、予算等を審議決定します。

短歌

都賀の台シルヴァークラブ 平野 寿男
馬齢七十年あまたの人に支へられ生きこし思へば涙ぐましも

都賀の台シルヴァークラブ 吉田 桂吉
刻ぐるように師が逝く月涼し 炎屋の予後身はてりの耳尖る 大盃にうつる青空夏休 追ひつけぬもの追ひつけ流れ星 叩きこる手の恍惚の西瓜売り

俳句

都賀の台シルヴァークラブ 吉田 桂吉
母逝きぬ庭の白萩咲き乱れ 争いて素直になれず秋時雨 行く秋やさつま焼酎宅配で

桜木町はづき会老人クラブ 長井 桂杉
留守寺と見まがふ門に辛夷咲く ひよつこの口尖らせて風車 荒海に鍛えられしか桜鯛

小児はり・温灸・はり専門
アスカ
明日香はり治療院

〒267-0055 千葉市緑区越智町1700-24(千葉東角栄団地内)
予約制・新患随時受付 針はディスポ(使い捨て針)使用
◎TEL 043-295-8807◎

会 員 募 集

見て、聞いて、体験!

長生き日本は急ピッチ

80まで生きる人の割合は、男が2人に1人、女はナント4人に3人。長生き日本は急ピッチで進んでいます。

働く若者は少ない

若者はシビアに働くが人が少ない。年だからといってたくさんいる元気な仲間まで、何もしないでは、日本は火が消えてしまいます。

健康で長寿そして社会参加

いちばん大事なことは健康で長寿。老人会は健康づくり、生きがいづくり、社会参加をサポート。一緒に行動します。

生涯現役の仲間づくり
幸せづくり

幸せは待つだけでは変わらない。何も始まらない。結果の早読みはしないで、息ながく幸せづくり、夢づくりの輪をひろげよう。

千葉県老連は情報発信基地

ご相談・お問い合わせは下記へ...

〒263-0013 千葉市中央区中央1-3-1 千葉市社会福祉事業団ビル
社団法人 千葉市老人クラブ連合会 電話 043-224-2050

編集者の手帖

▼ことしの夏は変な夏だった。青空を切り裂くような入道雲にも余りお目にかからず、台風もまだ単数。大雨洪水や北や中部の火山帯の群発地震、そうかと思えば毒入り飲料等地球や世の中どうなってるうと、ちよっぴり不安でもある▼敬老の日も終って、清風皎月、文化、体育、旅行シーズンになった。高齢者にとっても表を出歩くチャンスが多い日々、健康づくり、生きがいづくり、友達づくりの季節でもある▼超高齢化社会をいかに生きるか。若者は一生懸命働く。年よりもそれなりに働いて役立つ。これが健康法にもなる。お互い頑張りましょう。

ちば市老連 第九号

平成十年十月一日発行

発行 (株)千葉市老人クラブ連合会
〒260-0013 千葉市中央区中央1-3-1
千葉市社会福祉事業団ビル
☎ 043-(224)2050

印刷 有限会社 宮坂印刷

〒263-0021 千葉市稲毛区轟町一八一六
FAX ☎ 043-(251)4537
043-(251)4535